

神奈川県弁護士会新聞

発行所
神奈川県弁護士会
横浜市中区
日本大通9番地
☎045-211-7707
URL <https://www.kanaben.or.jp/>

神奈川県弁護士会臨時総会(予定)
日時 2025年2月26日(水) 12時30分〜
場所 横浜情報文化センター6F 情文ホール



神奈川県のアウトライ
ンと天秤をモチーフに
した神奈川県弁護士会
のロゴマークです。

もう3年くらい前にな
ると思う。知人たちに誘
われて、ランニングをし
始めた。40歳になる前
らidedったが、弁護士に
なつてほとんど運動して
いなかったから、走った
らすぐに息切れしていた
▼それから3年ほど、ほ
ぼ毎週末、ランニングを
するようになった。最初
は1kmゆっくり走って、
休憩して、また1kmなど、
短距離の繰り返しだっ
た。しかし3年ほど続け
ると、走るのが楽になり、
毎週15km程度走るのは当
たり前になった。逆に、
走らないと違和感を覚え
るようになってしまった
▼今では、マラソン大会
に出たり、ランニング仲
間もできるようになった
りし、更に走るのが楽し
くなってきた。周りから
は、毎週走ってすごいね、
と声を掛けられることも
多いが、本人は苦ではな
く、楽しみと爽快感の下
で走っているの、全然
すくもない。ただ、褒
められて素直にうれし
▼さて、今年は、新たに
障がい者のランニングの
伴走をしてみないかと誘
われて、初めて伴走ラン
ナーをやってみた。伴走
時には、相手をうまくリ
ードすることが必要で、
声掛けのタイミング、周
囲とぶつからないよう周
りを確認することなど、
なかなか難しいが、また
やってみようと思う。

山ゆり

「三淵嘉子と家庭裁判所」

～横浜家裁藤沢出張所誘致に向けた活動の今～

講演会

〔1〕

講演会

「三淵嘉子と家庭裁判所」を

藤沢で開催

日本で初めての女性弁護士として活躍する三淵嘉子さんをモデルとしたNHK連続テレビ小説「虎に翼」。いまだかつてこれほどまでに『家庭裁判所』がお茶の間で話題になることもなかったのではなからうか。

ドラマでは、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

顔も冷めやらぬ昨年12月1日、藤沢商工会館ミナパークにて、当地域司法計画委員会が企画した講演会「三淵嘉子と家庭裁判所」(共催:日弁連)が開催され、藤沢市長・藤沢商工会議所会頭・地元市議会議員らを含む86名が来場した。

一昨年1月に設立された「藤沢簡易裁判所に横浜家裁出張所出張所の併設を求める協議会」(会長:藤沢市長)の令和6年度総会が、昨年10月30

日に開催された。昨年度に引き続き今年度も最高裁判所・財務省へ要望書を提出しに行くことや、長野県佐久市長から呼び掛けのあった「地域司法充実のための協議会連合会(仮称)」への参加が、満場一致で可決された。

い」との発言もあり、非常に和やかに今年度の総会が修了した。当会岩田武司会長(同協議会副会長)からも、閉会の挨拶にて、「袴田事件や『虎に翼』の影響もあり、かつてないほど司法に対する関心が高まっている。身近な司法としての役割をどう果たしていくかを訴えていきたい」と力強い話があった。

会員の皆様には是非署名活動(当会ホームページ(2024年5月8日更新の最新情報)から署名用紙ダウンロード可能)への協力をお願いしたい。

組織内弁護士数は年々増加傾向にあり、弁護士が増える環境も多様化してきているところ、会員同士が互いの職場環境の違いを活かした情報交換や交流を行っていくことは、将来的な業界の発展にも資すると思われる。今後も緊密な情報共有や積極的な意見交換を進めることができるよう、本協定締結を第一歩として更なる連携が期待される。

そんな「虎に翼」の余韻も冷めやらぬ昨年12月1日、藤沢商工会館ミナパークにて、当地域司法計画委員会が企画した講演会「三淵嘉子と家庭裁判所」(共催:日弁連)が開催され、藤沢市長・藤沢商工会議所会頭・地元市議会議員らを含む86名が来場した。

講演会では、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

講演会では、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

講演会では、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

講演会では、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

講演会では、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

講演会では、伊藤沙莉さん演じる『寅ちゃん』が、女性法曹の道を切り開いていく姿、「愛の裁判所」としての家庭裁判所創設に奔走する姿、戦後の混乱期に女性や戦争孤児たちに積極的な手を差し伸べていく姿が描かれており、法曹関係者を含む多くの視聴者の胸を打ったことであろう。

講師の本橋由紀記者

官したのだが、「家裁らしい空気とは、法律を守りながら訪れる人たちの福祉を考えること。どんな境遇にあっても、外からの風には吹き飛ばされたいように、大事に育

JILLAと連携協定を締結

昨年11月26日、当会館において、日本組織内弁護士協会(JILLA)

と当会との間で、法の支配の浸透、弁護士自治の堅持及び相互連携を通じた発展を目的として、連携協定書を取り交わされた。

締結式には、JILLAから坂本英之理事長、吉武信子副理事長、新熊聡渉外委員長の他、当

岩田会長からは、JILLAは司法制度改革と同時に発足し、組織内弁護士という新しい弁護士の立場にいち早く着目した団体であり、本協定締結をもとに連携強化を図り

たいとの挨拶があった。また、坂本理事長からも、企業法務に力を入れているとされている会員もいると考えられ、相互理解と協力を深めていきたいとの挨拶があった。

JILLAと弁護士会との協定締結は、当会が全国で5番目であり、既に協定を締結している第二東京・大阪・兵庫・愛知県の各弁護士会では、共催研修の開催や定期的

協定調印式の様子

協定締結には、JILLAから坂本英之理事長、吉武信子副理事長、新熊聡渉外委員長の他、当

岩田会長からは、JILLAは司法制度改革と同時に発足し、組織内弁護士という新しい弁護士の立場にいち早く着目した団体であり、本協定締結をもとに連携強化を図り

たいとの挨拶があった。また、坂本理事長からも、企業法務に力を入れているとされている会員もいると考えられ、相互理解と協力を深めていきたいとの挨拶があった。

JILLAと弁護士会との協定締結は、当会が全国で5番目であり、既に協定を締結している第二東京・大阪・兵庫・愛知県の各弁護士会では、共催研修の開催や定期的

JILLAと弁護士会との協定締結は、当会が全国で5番目であり、既に協定を締結している第二東京・大阪・兵庫・愛知県の各弁護士会では、共催研修の開催や定期的

(会員 松井 美佑紀) (田鍋 智之)

刑事弁護修習の
最前線

～20年目の司法修習～

「導入修習」

その1

会員 妹尾 孝之

前回までで、修習生が実務修習を終えた後に司法研修所で受ける集合修習の内容の紹介をほぼ終えたので、今回は、実務修習前に、修習生が円滑に実務修習に入れるようにすることを目的として実施される導入修習の概要を紹介することとする。

法科大学院制度が始まった後、一時期、従来の前期修習が完全に廃止され、いきなり実務修習から司法修習が始まる時期があったが、私が教官を務めた2018年から2021年までの時期には、毎年12月の修習開始とともに、3週間のカリキュラムで導入修習が実施されていた。

現在も、修習開始時期が3月になったり、自由研究日が何日か設けられて若干のゆとりができたりはしているが、基本的な指導内容は変わっていない。3週間で5科目につき必要最低限の教育をして修習生を実務修習に送り出すため、集合修習のよう

に1コマ110分×3コマといった決まった時間割ではなく、教える内容に応じて85分のコマもあれば140分のコマもあるというような、変則的で複雑なカリキュラムが組まれていた。

修習生は、修習が始まった途端に各科目の教官から怒濤のように情報を詰め込まれて大変だったと思うが、全部で1年しかない修習期間から研修所での教育に割ける時間は限られており、これはこれで一つの完成形に近かったのではないかと

思う。修習生もハードだが、教官にとっても最もハードなのがこの時期で、12月という時季も相まって、導入修習の3週間が終わると同時に力尽きて風邪などでダウンする教官が続出するのが毎年のことであった。

特に、A班・B班に分かれて和光に来る集合修習と異なり、全修習生が一斉に和光に集まるため、A班・B班の両方でクラスを持つ2クラス持ちの教官は、同じカリキュラムを2回ずつ繰り返すことになり、尋常でない忙しさであった。

刑弁科目を中心としたカリキュラムの具体的な内容は、次回以降紹介する。

昨年11月22日、静岡県弁護士会(以下「静岡会」と当会との間で、「平時の災害対策及び災害時被災者支援活動」に関する協定書の調印式が行われた。静岡会からは、梅田欣一会長を始め理事者及び災害対策委員会委員計8名にご臨席いただき、当会からは岩田武司会長以下理事者、白川秀信県西支部支部長及び災害対策委員会委員が出席し、和やかな雰囲気の下、両会

長による調印式が行われた。調印式後には、中華街萬珍樓において懇親会も行われた。静岡会と当会とは、県境を接し、かつ共に太平洋に面しており、災害時の連携・助け合いの必要性は高い。実際に、令和4年の台風15号で静岡県内各地において甚大な水害が発生したときには、当会から、延べ14名の会員が、被災者向け現地相談会の応援に駆けつけた。他方で、当会が令和3年に発生した熱海市砂災害の現地視察、研修会を行うに当たっては、静岡会の皆様が大変お世話になった。また、この土砂

「イマジナリーライン」
上映会 & トークイベント開催

昨年11月30日、東京芸術大学横浜キャンパスにおいて、映画「イマジナリーライン」の上映会とトークイベントを開催した。

「イマジナリーライン」は、東京芸術大学大学院映像研究科の修了作品として製作された。監督の坂本憲翔さんは、2021年に起きた名古屋入国管理局でのウィシユマさん死亡事件にショックを受け、難民の子として日本で生まれたユメを主人公にした映画の製作を決めたという。

ユメは、仮放免中であることを隠し、入国管理局の許可を得ずに友人の文字と旅行に出かけ、逮捕されてしまう。収容されたユメを文字は何とか助け出すとするが、長期間に及ぶ収容生活の中で、ユメは次第に衰弱していき。

映画の中の、「あの子の母親は偽造パスポートで入国してる。れっきとした犯罪だ。みんなの生活を守るためには仕方ないことなんだ。」という入国管理局職員に対して、文字が「そのみんなの中にユメは入ってないんだ。」という台詞が、胸に刺さった。

後半のトークイベントでは、フェリス女学院大学の小ヶ谷千穂教授がモデレーターとなり、監督の坂本さん、NPO法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾の王遠偉さん、ウィシユマさん弁護士団の河西拓哉会員が、映画の感想や、それぞれの活動への思いなどを語った。

若い世代の彼らが丁寧に言葉を選んで発言する姿が観客の共感を生んだが、中でも王さんの「自分はこの間にいる」という一言は、映画のユメの姿ともオーバーラップして印象的だった。

一昨年、国は、日本で生まれた仮放免中の子どもに在留特別許可を出す方針を発表し、昨年9月までに212人に在留特別許可が出された。

しかし日本生まれでも、就学前の子や既に成人した人、親に不法入国など看過し難い事情がある子は対象外とされた。幼少期に来日した子も対象とされていない。

パネルディスカッションの様子

若い世代の彼らが丁寧に言葉を選んで発言する姿が観客の共感を生んだが、中でも王さんの「自分はこの間にいる」という一言は、映画のユメの姿ともオーバーラップして印象的だった。

一昨年、国は、日本で生まれた仮放免中の子どもに在留特別許可を出す方針を発表し、昨年9月までに212人に在留特別許可が出された。

しかし日本生まれでも、就学前の子や既に成人した人、親に不法入国など看過し難い事情がある子は対象外とされた。幼少期に来日した子も対象とされていない。

日本生まれ、あるいは育った子どもたちが、年齢や親の事情で線引きされることなく、『みんな』の中に含まれる社会を目指すためにできることを考えていきたい。

(会員 小豆澤 史絵)

昨年11月3日午前10時半から1時間、JR桜木町駅前「平和を守る全国弁護士会アクションの日」の横断幕を掲げて、街頭宣伝活動を行った。弁護士会ののぼり旗が強風ではためく中、岩田武司会長は「法の下の平等」の意義を訴える憲法公布記念日の談話を、小谷警副会長は翌日開催される人権シンポのテーマをそれぞれ紹介し、対策本部員らが憲法関連のグッズを200部ほど配布した。

公布日の活動は一昨年に続き2回目である。
(憲法問題対策本部 本部長代行 石黒 康仁)

11月3日
憲法公布日の街宣活動

街宣活動の様子

昨年11月3日午前10時半から1時間、JR桜木町駅前「平和を守る全国弁護士会アクションの日」の横断幕を掲げて、街頭宣伝活動を行った。弁護士会ののぼり旗が強風ではためく中、岩田武司会長は「法の下の平等」の意義を訴える憲法公布記念日の談話を、小谷警副会長は翌日開催される人権シンポのテーマをそれぞれ紹介し、対策本部員らが憲法関連のグッズを200部ほど配布した。

公布日の活動は一昨年に続き2回目である。
(憲法問題対策本部 本部長代行 石黒 康仁)

理事者室 だより

理事者室からの脱出？

副会長 飯田 信也

皆様は、リアル脱出ゲームという体験型の謎解きイベントをご存知だろうか。私は、当会のNさん(51期)、Aさん(54期)、Iさん(56期)、S副会長と一緒に、リアル脱出ゲームに参加している。

脱出失敗!!

Nさんは、すぐに脱出を諦めたり、手柄を横取りしようとしたりする悪い癖があり、「ポンコツ」とか「ドロボー」などと呼ばれている。S副会長は、諸般の事情により発言権を失ってしまふことがある。私は、レーコクさんに

謎を解かせてもらえず、紙を折ったりする図工的な補助作業を担当している。「工作員」と呼ばれるので、謎を解く機会があまり与えられていないので、常にメンバーの粗探しをしている。その意味でも「工作員」である。このようなメンバーなので、脱出成功となったことはほとんどないが、謎解きでミスした人を吊るし上げる反省会はとても楽しい。

ところで、今期執行部は、上記メンバーとは異なり、あらゆる課題に対して一致団結して取り組んでいるので、全く問題はないと思われるが、残りの任期を全うし、無事に「理事者室からの脱出？」成功となるであろうか。乞うご期待！

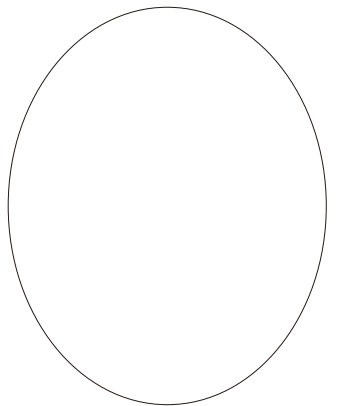
常議員の立ち位置と座り位置

会員 渡部 英明

常議員のいま

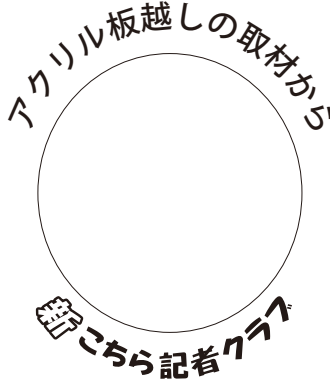
私は50期の枠で常議員になったので、50期の代表としての立ち位置で常議員会に参加している。ただ、私の場合、委員会などの役職にも就任している関係上、その委員会に関連する議題が出た場合には意見することもあり得る立場である。おそらく、他の常議員にも、期の代表、支部の代表、委員会の代表、ある考え方の代表など、様々な背景事情がある。

議長も常議員の席があらかじめ分かっていれば、名前を間違えなくて済んだと思うと、常議員の席を指定制にして、あらかじめ決めておくのもよいのかな、と思った次第である。



このような場面に遭遇すると、常議員会のチェック機能が有効に働いているのだと実感する。よく質問や意見を述べ、常議員の座る席は、常議員会の回を重ねるとある程度決まってくる。先日の常議員会で、私が見たまま、よく質問や意見を述べる常議員の座る席に座ってしまった。すると、私が手を挙げて質問をしたとき、議長が私の名前ではなく、その常議員の名前を間違えて呼んでしまった。

「つらい話を話せないのは、小さい頃からずっとだと思う。昨年、拘留所のアクリル板越しに、あふれる涙を何度もぬぐい、半生を伝えてくれた姿を忘れな



ず、病院にも行けないまま自宅で1人出産したという。語られる言葉に胸が詰まった。その後の裁判では、生い立ちや境界知能の特性などが考慮され、執行

猶予付き有罪判決が言い渡された。県内では2022年度に女性を含め4件の新生児遺棄事件が発生。孤立出産の取材を続けて

How About ADR? 20

横浜市と

ADR協議会を開催

当会が、横浜市との間で、中高層建築物等の建築又は開発事業に伴って生ずる紛争について、円滑な調整を図るため相互に連携を行うことを目的とした協定を締結していることは、ご存じだろうか。

つき、紛争当事者に対し、当会紛争解決センターを紹介する。

業に伴って生ずる紛争の迅速な解決を図る。当会と横浜市は、より円滑な連携を図るため、前記協定を締結以来、定期的にADR協議会を開催している。昨年11月16日、16回目となるADR協議会が、横浜市役所において開催された。

例年にも増して活発な議論が行われ、有意義な協議会となった。ADR手続に興味がある会員におかれては、当センターへの参加をお願

横浜市の中高層建築物条例の紛争調整手続において扱うことのできない問題(例えば金銭補償などの問題)が生じた場合、横浜市は、前記協定に基

調整の経緯や、当該紛争における論点及び建築計画の概要などの情報が提供される。

これにより、中高層建築物等の建築又は開発事

(紛争解決センター)運営委員会 副委員長 矢島 健生

横濱市は、前記協定に基

これにより、中高層建

などの報告があり、当セ

センターからは、近時の建

今回も健闘! 法曹囲碁大会

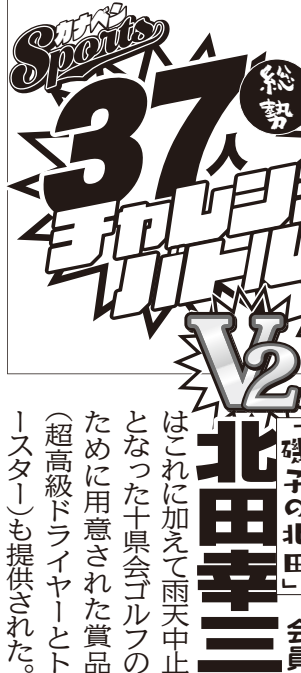
Aクラス 準優勝

昨年11月23日、法曹囲碁大会が、東京都千代田

総合優勝の濱田会員(左)



ヤッター! 賞品は超高級ドライヤーだ!



昨年12月18日、名門磯子CCにて、横浜法曹ゴルフ会主催で、忘年ゴルフコンペが開催された。当日は快晴微風のゴルフ日和の中、15期から75期までの総勢37名が、武

内大徳常議員会議長杯獲得を目指して熱い戦いを繰り広げた。新ペリア方式(隠しホールのスコアでハンディを決めるため、上位入賞には運も必要)にて行われ、優勝賞品は磯子名物のタルトだが、今回

区の日本棋院で開催された。大会は、棋力別にAからDの4クラスに分かれた3人1組のチーム戦で、合計3回の対局の成績で順位を決める方式で行われ、当会からはA、Bクラスに計6名の会員が参加した。

また、参加した会員は、大会の空き時間に、審判であるプロ棋士の青葉かおり五段や長島梢恵三段らの指導を受けるなど、囲碁三昧の一日であった。

結果は、Aクラスで準優勝と大健闘の成績であった。(なお、入賞はAクラスのメンバーである稲垣孝宣会員と榎本吾郎会員の活躍のおか

長島梢恵三段の指導碁を受ける面々

各団体の集まりが盛況のためか、4年ぶりに開催された前回大会に比べ、今回は特に高段者であるAクラスの参加人数が多く、東京弁護士会からは3チームも参加するなど、大会は大いに盛り上がった。

げで、同じくAクラス参加の筆者個人の成績は1勝2敗と振るわなかったことはご愛嬌と笑っていただきたい。) 普段の対局と違い、団体戦は個人の負けが帳消しになるといった独特の面白さがあるのも本大会の良いところである。

次回大会は、本年11月23日に開催が決まっている。囲碁クラブでは大会優勝を目指し、インストラクターから月1回程度指導を受ける等して腕を磨いている。

もし、本記事をきっかけに囲碁に興味を持ち、覚えたい、強くなりたいという会員がいたら、11月23日の大会を目標に囲碁クラブ(幹事・三浦修会員)へ参加してほしい。(会員 木南 公成)

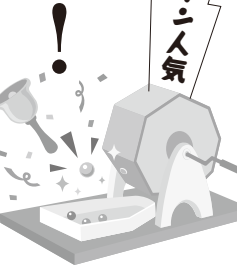
はこれに加えて雨天中止となった十国会ゴルフのために用意された賞品(超高級ドライヤーとトースター)も提供された。濱田会員は、ご本人には不要であろうドライヤーを迷うことなく選択し、家族思いの一面をのぞかせた。

常議員会議長杯と同時に行われた横浜法曹ゴルフ会の月例競技(持ちハンディ戦)は、「磯子の北田」の異名どおり、31期北田幸三会員が、クロス92の好スコアで、見事2年連続で磯子を制した。今回のコンペには、横浜法曹ゴルフ会以外から9名ものゲスト参加があった。プレー後の懇親会では、そのうちの鈴木洋平会員(57期)と辛鐘建会員(70期)が同会への入会を高らかに宣言される等、大いに盛り上がった。

横浜法曹ゴルフ会では、老若男女、シングルから百獣の王まで和気あいあいとゴルフを楽しんでいる。入会をご希望の方は、筆者までご連絡を。(会員 武藤 一久)

中区民祭り

弁護士会ブースが 熱い注目を集める!



中区民祭りは、年1回開催されている横浜市中区の恒例イベントである。1976年から続いており、毎年グルメや物販など多数のブースが並び、昨年は11月10日(日)

に象の鼻パークにて開催された。当会は2014年から出展していたが、新型コロナウイルス禍で一時中断し、2023年から、広報委員会と法律相談センター連

営委員会が共同して、出展を再開した。ブースでは、弁護士・弁護士会に関するアンケートを実施し、回答者には弁護士会グッズ(Tシャツ、ボールペン、タオル等)を景品とするガラポンを行った。ガラポン人気はすさまじく、約500人の方がブースに集まった。

委員会メンバーは休む間もなく対応に追われた。今年度は理事者も参加して、岩田武司会長にはブースでの景品の袋詰め作業まで行ってもら

い、藤田香織副会長には着ぐるみ(みみん)に入って当会のアピールをしてもらった。アンケートでは「弁護士会の存在を知らなかった」という回答が多数あり、継続的な広報活動の必要性を強く感じた。今後も「身近で利用しやすく頼りがいのある弁護士・弁護士会」を目指して、広報活動に邁進していきたい。

(広報委員会副委員長、法律相談センター運営委員会副委員長 畑 裕士)

5年ぶりに開催 年末恒例 協同組合バザー



2019年以来5年ぶりに、神奈川県弁護士協同組合のバザーが、昨年12月20日、当会会館5階で開催された。

5年ぶりということとで、バザー自体が忘れられてしまっているかと思われたが、心優しい組合員はしっかりと覚えていて下さり、貴重な商品を提供いただいた。とはい え、やはり久々であったので、商品の数も例年の3分の2程度、来場者数も少なめといった状況で、

その点は会場自体の広さを3分の2にするなどして、あまり閑散としないよう工夫(小細工?)し、従来と大きく変わらない盛況ぶり(?)になる(見える?)よう努力したりした。そのため、手前味噌であるがそれなりの「お祭り感」は出たのではないかとと思われる。商品数の少なさに比例して、割安感についても少なめの値付けとなってしまったが、このためか最終的な収益はそこまで落ち込まず、一定の成果は得られ(てしま)った。

したがって、来年以降もバザーは継続される気がするため、今後も皆さんのご協力をお願いしたいと考えている(いつもすみません...)。(バザー実行委員会 副委員長 青木 康郎)

編集後記

年が明けました。年々、時間の経過が早く、いつの間にか年を重ねているような気がしてなりません。皆様、いかがでしょうか。毎日、悔いなく過ごしたいものです。

デスク 青山 良治
記者 岡田 忠智
大河内万紀子
田鍋 智之
牧村 拓樹
土居 久子
中込 竜司
小野 航平